波多野通敏先生の御退職におもう

清水多吉

昭和の初頭以来、波多野通敏先生の本学における足跡は、ほぼ半世紀の長きにわたる。その間、先生は本学哲学科の中心として、幾多の人材を世に送り出されたのみならず、あるいは文学部長として、あるいは図書館長として、本学の発展のために尽力してこられた。

ひるがえって考えてみるに、私どもは今さらながら先生の学問が、多彩でありかつ具体的であったことを思わずにはいられない。ギリシア哲学、特にアリストテレースに関する諸論究、ドイツ観念論、なかんづくカントの「実践理性批判」に関する諸論文はいうにおよばず、興がいたれば、源実朝論、珍元品論、天流道人論等、日本中世近世思想史や日本美術史についてもうまず語られたものであった。更に、井上哲次郎、西田幾多郎、桑木厳翼など、日本近代哲学史上の偉大な先人たちの直接的な思い出、あるいは彼らとの直接的な交渉の結果である書簡類などを通して、私どもに、生きた哲学史を教示してくださった。

また、先生はギリシア哲学の希をとって、希山と号し、よく書をたしなまれるほか、茶道にも深く通じておられる人でもあった。特に私どもの先輩、後輩あるいは学生たちのなかで、先生から書の手ほどきをうけた者は多かったは

ずである。学部長、図書館長という煩雑な職務にあられる時でさえ、先生は学生たちの書道クラブの面倒をみて下さり、各種展示会などではその会長におされ、先生ご自身の作品をもって、学生たちの指導をして下さったものである。

近年、先生は健康を害され、特に足部の神経痛はますます悪化の一途をたどっていた。このような事態に際し、定年前でありながら、学生、教職員たちに迷惑がかかるのは不本意であるとされ、かつ後進に道を譲るためにも勇退されることを申し出られた。先生のご自身を処せれる仕方は、教授会、研究室一同の称賛おくあたわざるものがあった。されば、先生、一日も早く健康をとりもどされ、名誉教授として、再び、学生、教職員一同をご指導下さらんことを願うのみである。

主要著書

昭和五年一二月	宗教哲学名著解説	立正大学哲学会
昭和六年　六月	アリストテレースの形而上学	右同
昭和七年　四月	ヘーラクレイトス	刀江書院
昭和三八年五月	哲学の基礎	明玄書房